

タウンミーティング（桜樹地区）開催報告

- 日 時 令和元年10月31日（木） 午前13時30分から
- 場 所 桜樹公民館2階多目的ホール
- 参加者 桜樹地区自治会長（臼坂自治会長）、公民館運営協力委員長、千原・鞍瀬・楠窪・明河自治会長、鞍瀬老人会長、交通安全協会桜樹支部長、市長、経営戦略部長、危機管理監、農林水産部長、環境部技監、丹原総合支所長、危機管理課長、地域防災アドバイザー、シティプロモーション推進課長、丹原総合支所総務課総務調整係長、桜樹公民館長
- 傍聴 7人
- 次 第
 - 1 開会
 - 2 挨拶（桜樹地区自治会長）
 - 3 挨拶（市長）
 - 4 市の主要事業について《市提案》
 - (1) 主要事業の説明（市長）
 - 5 参加者自己紹介
 - 6 地域課題「地域防災対策」について《市提案》
 - (1) 課題等の経緯等内容説明
 - (2) 意見交換
 - 7 地域課題「人口減少地区における自治会活動」について《地域提案》
 - (1) 地域からの提案説明
 - (2) 意見交換
 - 8 その他
 - 9 閉会

○会議録

1 挨拶

【桜樹地区自治会長】

このタウンミーティングは、西条市連合自治会と市が主催となり、地域が主導して開催するもので、市の現状や今後の市政方針の説明に加え、地域住民と市と一緒に地域の課題について話し合うことで、私たちの声を活かした愛着の持てる地域づくりを行うことを目的としている。

事前に各代表から課題等を提出し、その中から今日は、地域防災対策と人口減少地区における自治会活動について話し合う。

今回は、地域課題を市長も交えて、地域の皆で話し合い、各団体それぞれの意見を共有することを目標に、次回に繋がる会議を皆様の協力をいただきながら進めて参りたいので、よろしく願います。

【市長】

皆様こんにちは。いつも、西条市の地域づくりの中で活動いただいていること、皆様の熱い思いで地域が成り立っていることを、この場をお借りして感謝申し上げます。

このタウンミーティングは6月22日からスタートし、来年度の予算に反映すべきは反映していこうとの思いもあり、約5ヶ月の間回らせていただいている。

桜樹地区は、高齢化や役の固定化などがあり、市のパッケージを当てはめると、なかなか成り立っていない時代になってきている。加茂地区では、地域のコミュニティを加茂独自に変えていこうという話がある。地域の皆様が組織を必要な数に絞ること決め、市がサポートしながら地域コミュニティを確保するという形もあると思う。桜樹ではどうかという話もふまえて、住んでよかった、安心して暮らしていける桜樹にしていきたい。伝統文化を守っていかれる姿に、私たちもしっかり行政として、伴走し、時には旗振り役をしていかなければと思っています。

今日は、忌憚のない意見をお聞かせいただきながら、これからの桜樹をどうしていくか、そのきっかけづくりになればと思うので、よろしく願い申し上げます。

2 市の主要事業について《市提案》

(1) 主要事業の説明

【市長】（参照別紙資料（1））

3 地域課題「地域防災対策」について《市提案》

(1) 課題等の経緯等内容説明

【地域防災アドバイザー】(参照別紙資料 (2))

(2) 意見交換

【参加者】

最近、非常に風水害が多い。最近の台風の情報是非常に正確になっており、コースについてもほぼ間違いがない。早期の避難や準備も綿密にされている。ただ、災害で台風のほかに心配なのが地震で、これは全く予知なしに来る。桜樹は、どの道路も迂回路が一切なく、山が急斜面のため土砂崩れ等の災害も多くなってくると思う。

また、昔は大雨で1週間も1ヶ月も山の奥の方の部落が孤立した事例もあった。そこで、鞍瀬、千原、楠窪、明河の学校跡地の広場をヘリポートにして、災害時の物資の供給等に利用できるような方策をたてていたら、突拍子もない災害があった時に非常に住民は助かるのではないかと。いろいろ調べてみると立木や電線の関係等難しいとは思いますが、出来れば検討の中へ入れていただきたい。県の防災ヘリが、消防署でホバリングしていた。かなり狭いところでもやっていたので、それなら可能ではないだろうか。

【市長】

防災ヘリだけでなく、ドクターヘリも飛んでおり、恐らくご覧になったのは、ランデブーポイントという救急車との合流のための離着陸場所を決める作業だと思う。送電線の関係やラインを見間違える可能性、入角と出角というような問題もあり、ランデブーポイントは慎重に選ばなくてはならない。加茂地区では、194号線の大規模な土砂崩れがあり、孤立をした際、小学校の跡地でホバリングをしながら救援物資を下ろした。この鞍瀬の溪谷内、あるいは千原などは大変なところだと思うので、そこに降りられるか、ホバリングで救援物資を降ろせるかはもう少し検討をしていかななくてはならないと考える。

【危機管理課長】

明河小学校跡地を県のヘリコプターの隊員と一緒に確認に行った。やはり入角と出角のところで送電線があるため、そのまま降りて飛び立つのは難しい。ただ、ホバリングで物資を降ろしたり、人を吊り上げたりは可能である。明河と楠窪については適地が見つからなかった現状がある。千原は、まだ確認していないので、県の航空隊に場所の確認をしていただくよう伝えていきたい。

【地域防災アドバイザー】

市町村が指定をしたり、調査依頼を受けたヘリポート適地は、自衛隊は必ず点検に行く。実際に角度を測れるものを持って、敷地の面積やその他まで実際に測って、それを基にして許可を経て実際にヘリコプターを飛ばせて、指定をおこなっている。市は市有地しか指定はできないため、民有地だが基地として使ってもいいというような所を地区の防災計画等で指定ができれば、それを基にして国や県などが情報をもって行動ができるということに繋がっていくので、どんどんこのような意見をいただいて取りまとめたい。

【参加者】

峰の林道の災害復旧工事が始まっていたが、今は中断されているようである。どの程度の中断になるのか。峰の林道を上がったところに公民館から一本木までの水源地があり、土砂が多く行けない状態なので、出来るだけ早く工事を再開してほしい。

【農林水産部長】

峰下影線で現在、林道工事を行っているところは、災害復旧工事で発注して実際に掘り出したら山のほうが動き出したので経過観察中である。調査した結果、岩の上に乗っている土が動き出したということで、落としてやってしまうのか鋭意検討している。お祭り前くらいにそのような状態が発覚し、現地調査、コンサルタントや県を呼んで今後の方針を立てていくような段階であり、鋭意進めているためもうしばらく待っていただきたい。

【参加者】

治山工事と並行してやっていくということか。

【農林水産部長】

治山工事について県に相談したが、すぐにはできないということで、林道工事を優先させる。

【参加者】

水道の管理をするのが、皆、歳を取って登れないので、出来るだけ早くしていただきたい。

【農林水産部長】

そこを越えないと、上に水源地等があつて管理ができないという状況か。

【参加者】

旧の坂道を歩いては行けるが20分くらいかかる。

【農林水産部長】

お伝えできる情報は提供していく。

【参加者】

衛星電話は家の中では通話ができないらしい。外に出て通話できるのだが、そこを何とかしてほしい。

【危機管理課長】

衛星携帯電話は、基本的には孤立をした場合の通信手段と考えている。当然災害時にも、発生直後にも連絡が取れることに越したことはないが、基本的には災害が発生した後に、地域が孤立してしまった場合に連絡を取るような形になる。その場合にはどうしても屋外での使用という形にはなるが、天候に左右されない外で、南向きの斜面 45 度というところで通話はしてもらいたいと考えている。屋内で使用するのには難しい現実があるということで理解していただきたい。

【参加者】

B S テレビは映ると思うが、改善はできないのか。

【危機管理課長】

衛星テレビは、屋外にアンテナがついており、それが入ってくる形になっている。衛星携帯電話は屋外での使用を念頭に考えていただきたい。

【参加者】

いざというときに利用できなかつたら全然通信の手当てがないので、それを何とかしてほしい。

【危機管理課長】

発電機の点検に毎年行っているのですが、その時に合わせて通信状況も確認する。

【参加者】

災害というと南海トラフのことばかりになってはいけけないのではないか。この真下に世界最大と言われていた中央構造線が走っており、これが動かないという保証はない。現に 10 数年前に岡村断層を調査した時に 65 センチのズレが見つかった。65 センチも大地が割けたらどうなるか。志河川ダム建設の説明会の時に建設省に「中央構造線の真上にダムを造るのか。何かあったら責任とれるのか」と言うと、「大丈夫である。」との答えであった。湯谷口温泉の下に世界的に有名な中央構造線の露頭があるが、石鎚山系の地盤は高縄山系の地盤の下に潜り込んでおり、丈夫といえば丈夫だが、それが動いた時の反動の怖さは、中山川を中心にしてどれぐらい動くのか想像を絶する。南海トラフが動いた時に中央構造線も動くというのは絶対にあると思う。そのあたりを学術的に発表したり調べたりしている資料がどこかにはあるはずなので危機管理課の人は、それを調べておいて欲しい。自分たちは中央構造線の真上で毎日生活しているということを忘れないようにしないといけない。台風時に皆、石鎚山のおかげで助かったと言う。ありがたいことだと思うが、そのおかげで平和ボケしている。平成 16 年の大きな台風の時に目が覚めたような感じになったが、地震に関しては、まだまだ危機意識が非常に少ないと思う。芸予地震の時に山振で作ってもらった簡易水道のタンクの 2 つあるうちの 1 つが、中が割れて、コンクリートの構造物が割れてパイプが斜めになっていた。地震というのはそれくらい目に見えない地下の動きがあるという怖さを知ってほしい。もしも中央構造線が動いた時にはものすごい山津波が発生する可能性があると思う。台風災害も水害も目の前のことだから大変であるが、長期的に考えて、ひょっとしたら 100 年先、200 年先かもわからないが、構造線の上に生きているということの子孫に残していけるような防災対策も考えていかなくてはいけないのではないかと。

【危機管理課長】

ご意見感謝する。市も中央構造線が動いた場合の被害想定等もおこなっている。ただ、一番西条市において被害が大きいのは南海トラフの巨大地震で、震度 7 の被害を想定している。中央構造線が一番ひどく動いた時も震度 7 というのが最大級の揺れであるからそれと同じような揺れが適用される。ただ地震の仕組みについては私共も知っておく必要があると思うため、お話があったように色々な書籍等を確認させていただきたい。住民周知については、これまでと同様に震度 7 の南海トラフの巨大地震に備えた地震対策をとっていくようなことで引き続き取り組んでいきたい。

【市長】

中央構造線の動きで、メカニク的なわからない部分もあるのだと思う。先ほど申し上げたように南海トラフの巨大地震と震度想定は一緒だけれども恐らくケースは全く変わってくると思う。文献等があるのかどうか調べておこななくてはならないが、おっしゃったように南海トラフだけに目が行きがちだといけけないので、しっかり我々が危惧し、子々孫々伝えていかなくてはならないという問題提起だと思うので、情報発信について少し検討させていただきたい。

【参加者】

防災について。千原の道路の約半分くらいが木で被さってきている。竹林と腐った杉の木が何本も道端

にあり、道に被さってきている状況にある。また、雨や台風になると地下水が2か所避難する道路に出てくるので避難が難しいところもある。そして、落石が多い。狭い道であるため一つ石が落ちていけばもう通れない。

【市長】

道路の点検は、どのようにおこなっているのか。

【参加者】

台風のあとはいつも掃除している。掃除しないと通れない。そういうのを何とかならないか。

【市長】

管理側としてはどういったことができるか。

【丹原総合支所建設管理課長】

台風後にパトロールを実施し、通れないような倒木等はパトロール中に除くなどしている。大きなゴミは市で対応させてもらっていると思う。

【参加者】

来てもらえると聞くと、仕事に行くのに全然間に合わないという方もいる。地主が違うのでやりにくいとは思いますが。

【丹原総合支所建設管理課長】

朝早くと言われたら間に合わない場合もある。連絡いただいたら対応させていただく。

【市長】

マンパワーのところもあるので、すぐに行けない場面もあるかと思うが、連携を密にしながら実施していきたい。

【参加者】

台風の時に湧水が出る場所、普通の時には、ちょろちょろしか出ない。図面上は谷になっていないところは工事ができないと言っていた。ただ湧水が出ているだけでそこに水が流れないようにしていただくためにはどうしたらいいか。

【丹原総合支所建設管理課長】

市有地については、堰堤みたいなものであれば林業に言えば対応できると思うが・・・

【公民館長】

個別の質問については申し訳ないが、直接丹原総合支所建設管理課と話をさせていただきたい。

【参加者】

市の方から早く自主避難させるよう連絡をもらうが、各戸へ電話をかけたり、会って話をしても、「事ないからここに居る」など言われる。2、3年前にもたまらなくなって市の方へお願いして来てもらったところもある。自分の命は自分で守るとか言うが、なにか呼びかける良い言葉はないものか。

【市長】

私が防災行政無線で逃げてくれと言っても全然逃げてくれない。そういった意味では自治会長が言っただけのほうがまだ効果がある。

孫や子供が言うのが一番いいと聞く「じいちゃん、逃げようや。ばあちゃん逃げようや。」と言うのが一番応えるらしい。これは全国的な話なので、桜樹に当てはまるかといえば、なかなか状況がつかれない。どうしようか。

【危機管理課長】

やはり身近な人が声かけするのが一番効果がある。桜樹地区においては、会長が一番身近な人ではと思うが、投げかけの言葉については今後色々なケースが出てくる。国も避難をしない方をどう避難させるかに一番に取り組んでいるところなので、アナウンスの仕方等についても調べてわかり次第、連絡する。

【参加者】

決まった返事は「出るほうが危ない」「家で居るほうが安全」と言われる。

【危機管理課長】

雨がかなり降っている時に避難するのは一番いけないことなのでそれは絶対にさせないようにしていただいて、雨が降る前に縁故避難や親戚宅等に孫の顔を見に行く、そういった感覚で危ないところから出ていくのが一番効果的ではないか。是非そういった方法も考えていただきたい。

4 地域課題「人口減少における自治会活動」について《地域提案》

(1) 地域からの提案説明

【桜樹地区自治会長】

3つに絞って申し上げる。

1つ目は、桜樹地区では人口減少に歯止めが利かず高齢化が進んでいる。自治会などの役員になり手がない。それでもお世話できる人はいろいろ役をお願いしているが、1人で複数の役を引き受けていたり、自治会役員を1年周期で持ち回りしたりしている現状である。役職を兼務している人に負担が非常にかかっている。

2つ目は、各小組合単位程度で山村振興事業による簡易水道施設を整備していただいているが、整備当初から比べると受益戸数の減少や受益者の高齢化により施設の定期清掃や水源地への点検が困難になっている。また、修繕のための補助金制度はつくっていただいているが、補助金額に上限があることや、大規模な修繕になると受益戸数の減少により個人負担が大きくなり負担できないことも考えられる。いざという時のために積み立てをしているところもあるが、受益戸数が少ないところでは積み立ての仕組みもできていない。金額もなかなか貯まらない現状がある。

3つ目は、桜樹地区ではイノシシやサル、鹿などの有害鳥獣による被害が甚大で、柵をつくったり花火で脅しても柵を壊したり花火に慣れてきて、人間と動物のいたちごっことなっている。畑を柵やネットで囲いをして人間が檻の中で作業をしているようなところも見受けられる。田や畑の耕作意欲はなくなり、益々荒廃地が増え、そこに動物が住み着いたりする悪循環が進んでいる。また、生活道の付近をイノシシが掘り起こして石を落としたり、大きな穴を掘ったりして通行の支障になったり、車で通行中に急に道に飛び出したりしてブレーキを踏んだり車にぶつかったりすることもある。

(2) 意見交換

【市長】

1つ目の役のなり手について、この役は地域にとって必要かどうか。例えば加茂地区のタウンミーティングでも役が12個くらいあり運営が大変だという話があったが、桜樹でも一緒だと思う。そういった中で、例えば民生委員は高齢者のこともあるのでこの役は必要であるとか、自治会は連絡網として必要だとか、こういったことを連合自治会の中で館長も一緒に、皆様で話してもらって「これとこれは残そう」「これはこらえてくれ」といったものがあってもいいと思う。そうはいいながら、市の方としてもその代替えとして「連絡体制としてはこういうことをお願いできるか」という話をするなどして、なんとかして地域コミュニティを残していきたいと思っている。是非いろいろな役職の必要性について皆様で話し合っ、市も地域自治の関係もあるので、1回協議の場を作ってもらいたい。実は、加茂校区でも、市も地域の中に入って12月に話し合いをスタートする。是非とも遠慮なく皆様の苦労話も含めて一緒に考えていきたい。

2つ目の簡易水道は、当然大切な生活インフラである。例えば自分たちで管理ができないときに業者に委託をお願いできないかという話だが、一人当たりの負担が大変だと聞く。業者にも管工事組合というものが、そういったところにうまくアプローチし、業者への委託をできるだけ負担の少ない形で交渉ができるかどうかを少し考えていただきたい。

3つ目の有害鳥獣の関係は、山間部が抱える課題で、獣と対抗していかななくてはならない。花火などの脅しでは全然効かない。JA越智今治は農協が補助を出して鳥獣被害の柵も小さなものから大きなものにしていくケースがあるので、農協などにもお願いしようかと思うが、いずれにしても桜樹だけではなく、解決が見えない課題である。共存が出来ればいいがそういうわけにはならないので、畑を守るにはどうすればよいか考えなくてはならない。もう少し「桜樹に合った」対策を農林水産部とも話をしていきたいと思っている。

【環境部技監】

水道施設について補足説明する。山村振興事業でおこなった施設について地元の方で維持管理をしていただくことが基本にあるが、高齢化も進んで維持管理自体も厳しくなっている現状も把握はしている。先ほど市長も申し上げたが地区と設備業者で委託契約を結んで管理委託をしていただく方法があるかと思うが、それも負担を伴う。山振事業でやっている地域は市内で32カ所ある。丹原の方もかなりそのような地域があり、一つの地区で難しい場合は、色々な地区を統合したような形で管工事組合と話をし、少しでも費用を少なくする方法もいいのではないかと思う。業者間の話し合いに、市も入って話をするといい支援助はさせていただいたらと思う。

【農林水産部長】

鳥獣被害のことであるが、市長が申し上げたとおり、市内全体、日本全国の問題でもある。ICTを利用した大型わなについては、獲るだけの労力も大変だということで、遠隔操作で大量に捕獲しようとする今治の上浦で行われたものである。ただ、よく獲ればいいが、中には問題もある。例えば箱わなを設置して、スマホで扉を落とすので通信費のコストがかかる。あと、獲ったものについては処理しなければならない。獲った時にはまだ生きていたのでなんとかして殺してから埋葬といったこともしなければならない。扉を落とすのも狩猟免許が要る。細々した体制を整えれば市としてもJA等と話しながらこのような大型箱わなを設置していきたいと考えている。

【参加者】

公民館の向こう掛けの水路は、いつ頃に着工になるのか。県が治山工事して水路を抜いてそのあと市のほうがやってもらえるようになっているが。民家の上を通っているところなので。

【公民館長】

10月末に入札があった。ただ入札が不調になったので11月に再度入札するそうである。

【参加者】

自治会長が避難をなさいと台風前には触れて回ってくれている。しかし、うちは2人だけなので、昔は消防の詰所に出ていっていたが、あちこち山から水が出ていて危ない、家の方が安全だから家に居ようとなったことがあった。

水道は、自分は歳を取って歩いて上まで行けないが、若い人が、水道が止まりかけたら行ってくれている。台風の際は12~3万円ずつ分けて修繕をしている。

【参加者】

白坂地区に簡易水道が4箇所ある。一番の下でも白坂の宝ケロ（ほけぐち）川西（かわにし）、笹ヶ峠（ささかとう）、柳曾（やなぎそ）、成（なる）、高月（たかつき）、相之谷（あいのだに）とかなり広い範囲だが、宝ケロに関しては上水道が来ている。

その次の川西地区は若い方はいるが保守できないということで簡易水道ではなく、上水道にならないかと建設管理課へお願いに行ったがそれは無理であるようだ。納得はしていただいたが、そこも積み立てはやっていなかった。

笹ヶ峠地区は20数年前から各戸でわずかながら積み立てをしてやっと40~50万できたが、大きな工事をしないといけなくなり、業者に任せたら掘るだけでも何十万もかかるということで、3人程で機械を持って行ってなんとか掘り上げて、水道設備へお願いした。

積み立ては大事だと思う。しかしながら年々老朽化してくるので費用も嵩む。来年は各戸からの積み立てを少し上げようかと検討している。皆さんの所も戸数も減ったりはするが、積み立ては大事だと思う。

【環境部技監】

補足させていただいたらと思うが、点検等は地元でしていただかないといけないが、修繕等に関しては市の補助金があるので、市の水道課に相談していただければ、補助金を出すことは可能であるので、市へ相談をしていただきたい。

【参加者】

市の建設管理課で対応していただいてやっている。

【参加者】

水道に関してもう一つ。千原の水道は補助事業でつくられたものかどうか知りたい。

【丹原総合支所建設管理課長】

補助事業ではない。個人で設置していると思う。

【参加者】

では、補助などはどうなるのか。

【丹原総合支所建設管理課長】

2戸以上で、金額がいくら以上などの要綱がある。補助額は2分の1で上限が60万円。

5 その他（地区における課題及び要望に対する回答）

【公民館長】（参照別紙資料（3））

各自治会、団体から提出された桜樹地区における課題及び要望についての市の担当者からの報告に関しては、それぞれの担当課へ後日お問い合わせいただきたい。

6 閉会

【桜樹地区自治会長】

本日は、お忙しい中、市長や地域の皆さんにご出席いただき、桜樹地区に関する防災や地域内のことについて、市長にお伝えし、また、お互いも知ることができた。更に桜樹地区全体で災害に備えるため、話し合いを続けていきたい。

皆さんも各団体に帰られて、話し合いをしていただき、今後も市と協力しながら、住民同士が支え合える、災害に強い地域づくりを目指し、地域自体を盛り上げていけたらと思う。

また、行政の皆さんには、活動に際しいろいろと相談や支援をお願いする。皆様、本日は本当に感謝する。

（閉会）

<タウンミーティングの様子>

